

第6学年*組 国語科学習指導案

指導者 川嶋 多寿

- 1 単元名（教材名） 「語りたい自分の心にぐっときたこと ～立松和平の命シリーズ『海』と『山』の物語を比べて～」
 （「海のいのち」, 「山のいのち」）

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「立松和平の、生き方や命をテーマとする二つの物語を比べながら読んで話し合う」ことを位置付けた。この活動では、同じ作者の二つの物語を文章表現や人物の心情の変化に着目しながら比べて読み、それぞれの物語が最も強く語りかけてきたことについて話し合う。また、二つの物語の共通する部分や異なる部分を読み合うことで、より広がりや深まりのある読みの力を付けることができる。これは、学習指導要領第5学年及び第6学年「C 読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」につながっている。また、二つの物語のそれぞれの中心人物の心情の変化に着目させることは、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること」のうち、特に「登場人物の相互関係や心情」を主体的に捉えて読む力を付けることができる。さらに、二つの物語を比べて読んで話し合うことで、自分の考えの根拠が確立し、自分の考えをまとめていくことができると考える。

3 単元について

(1) 児童の実態

児童は、5年生の2学期に「注文の多い料理店」を読み、物語の構成や表現の工夫を見付け、その優れた叙述について自分の考えをまとめる力を育成するために、作品のよさを解説する文章を書く活動を行っている。また、6年生の1学期には「風切るつばさ」を読み、人物相互の関係を手がかりにして中心人物の心情を捉える力を育成するために、人物関係図に整理しながら、場面毎に変化する人物の心情について自分の考えを交流する活動を行った。しかし、自分で考えを深めたのではなく友達の影響の受け売りだったり、自分の解釈をもととする意識が薄かったりする児童が見られた。さらに、実態調査（平成*年*月*日実施、*人）を行ったところ、次のような結果が得られた。

設 問	正答人数	誤 答
【平成26年度県学力診断テスト6年生】	イ	ア *人
⑫ 「太も大声を出した」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を□の中にも書きなさい。 ア はじめから少年たちが、大きな声を出していたため。 イ 泳ぐのをやめようとする気持ちをふきとばすため。 ウ 先導の青年に、自分がどこにいるかを知らせるため。 エ エンヤコラのかげあいはいかにもやぼったくて昔風だったため。 オ 隊から少しおくらせているヤッチンをはげますため。	*人 (*)%	ウ *人 エ *人
⑬ 「太は自分に問いかけていた」とありますが、このあと太は、最後まで泳ぎ続けました。その理由を「あこがれ」と「遠泳の勇者」の二つの言葉を使って、30字以上40字以内で書きなさい。	*人 (*)%	理由として成立しないもの *人 無答 *人

この結果から、自分一人の力で、文脈に即して人物の心情を捉え、自分の考えにつなげることができる児童は少なくないといえる。このことから、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること」に関する力を伸ばす必要があるといえる。本単元では、児童が物語を十分に理解するために、友達と自分の考えをグループで交流しながら読み深め、登場人物の人間関係や出来事などから、登場人物に変化を与えたものは何なのか、何が変わったのかを捉えさせたい。また、単元導入時に、疑問に思った点やもっとよく考えたい点などの読みの課題を見付けさせ、それを解決していく学習を展開することで、主体的に読み深めることができるようにしたいと考える。

(2) 教材観

本教材は、海に生まれた太一が、父や与吉じいさの死を乗り越え、村一番の漁師に成長する姿を描いた作品である。海という壮大な自然の中で、たくましく成長する太一の姿を通して、自然への畏敬の念と「いのち」のつながりの豊かさ、尊さを考えさせるものとなっている。また、父や与吉じいさの生き方に触れ、自然とともに生きる太一の姿が、自然と向き合い、自然の恵みに感謝する心を忘れない、人間本来の生き方であることに気付かせてくれる。本教材では、太一をはじめ、「海」で生きるそれぞれの人物像を捉えさせ、人物相互の関係を手がかりに山場での太一の変化とその理由について考えさせたい。また、題名である「海のいのち」は作品の主題に関わる言葉である。「海のいのち」は何を意味するのか、物語の展開を追いながら、太一の変化を踏まえて考えさせたい。また、「山のいのち」は、立松和平の命シリーズの一作目である。自閉症の少年静一が、祖父と二人きりで山奥に暮らすことになり、自然の優しさや厳しさを体験していく物語である。特にイタチのいのちを奪う場面では、その描写から「いのち」について考えたり、その大切さなどを改めて考えたりすることができる作品である。その物語の中で、祖父が静一に語る、自然やいのちに対する考え方が、「海のいのち」の根底に流れるものと同じであることに気付かせてくれる作品となっている。

この二つの作品を読み比べることで、児童は自分の考えの根拠が確かなものとなり、感動の中心を捉えることができるようになる。

(3) 指導観

本単元では、児童の実態を踏まえ、「文脈に即して人物の心情を捉えて自分の考えにつなげること」をいかにサポートするかが重要である。そのためには、場面毎や物語毎に、自分からグループへ、グループから全体へという流れを繰り返しながら、考えを修正したり、広げたり、深めたりすることの繰り返しが必要である。その流れをスムーズにするためには、考えの手がかりとなるワークシートを個々で完成させなければならない。その段階で、教師が児童一人一人の考えの内容やつまづきなどを把握し、どのようなグループ編成をすればよいのかを考えていく。その際、同じような考えをもつ児童でグループを編成することにより、自分の考えに自信をもち、積極的に話し合えることができるようになる。また、主体的な読みを展開するために、常に自分の読みの課題がどこまで解決したか確認する振り返りを行っていきたい。

第一次では、目的をもって主体的な比べ読みができるよう、課題をもつ。第二次では、出来事や人物相互の関係、表現の工夫を手がかりにして、読みを深める。その際、人物関係図をグループで整理して考えをまとめたり、児童一人一人が「海のいのち」、「山のいのち」をそれぞれ上下見開きでまとめる「海と山 比べ読みカード」を完成させたりする。第三次では、二つの物語の共通する部分や異なる部分を話し合ったのち、二つの物語が最も自分に強く語りかけてきたことを話し合う。その際、話し合いを深めるために、教師が児童同士の考えをつなげていく。そして、話し合いの後に、「考えの変化・深まりカード」に話し合いの結果を記入し、自分の「海と山 比べ読みカード」に添付することで、自分の考えの深まりを自覚できるようにするとともに読みの深まりを実感させたい。

4 単元の目標

- 物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができる。(読むこと)
- 物語の山場で起きる人物の心情の変化を捉え、物語のどこが自分に最も強く語りかけてきたのかを考えながら読むことができる。(読むこと)
- 物語が最も強く語りかけてきたことを友達と伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと)
- 大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が強く語りかけてきたことを考える手がかりにすることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語をより深く味わうために、目的をもって比べ読みをしようとしている。	・物語の山場で起きる人物の心情の変化やその理由を捉えるために、山場の前までに起きた出来事や、他の登場人物	・大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が自分に強く語りかけてきたことを考える

<ul style="list-style-type: none"> ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことについて考えを伝え合うために、意欲的に考えをまとめようとしている。 	<p>との関係、表現の工夫を手がかりにして読んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語をより深く味わうために、二つの物語を比べながら読んでいます。 ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを文章にまとめている。 ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友達と伝え合い、考えを広げたり、深めたりしている。 	<p>手がかりにしている。</p>
---	---	-------------------

6 単元の指導計画（10時間扱い）

次 (時間)	主 な 学 習 活 動	主 な 評 価 規 準
一 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・立松和平の、生き方や命をテーマとする二つの物語を比べながら読んで、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを話し合うという学習課題を確かめ、学習計画を立てる。(個人) ・物語を通読して感想を交流し、これから読むための課題を考える。(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度) ・物語をより深く味わうために、目的をもって比べ読みをしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
二 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の構成を理解し、太一の心情が最も大きく変化した場面を捉える。(個人) ・山場の前までに起きた出来事や他の登場人物との関係を手がかりに、瀬の主に対する太一の心情の変化を捉える。(個人→全体) ・人物相互の関係や、文章表現の工夫を手がかりに、太一の心情の変化とその理由について話し合う。(グループ→全体) ・「山のいのち」で気になる言葉や表現、静一の心情の変化についてまとめ、話し合う。 (個人→グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の山場で起きる人物の心情の変化やその理由を捉えるために、山場の前までに起きた出来事や他の登場人物との関係、表現の工夫を手がかりにして読んでいます。(読む能力) ・物語をより深く味わうために、二つの物語を比べながら読んでいます。(読む能力)
三 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの物語が最も強く語りかけてきたことをまとめる。(個人) ・二つの物語が最も強く語りかけてきたことを、グループで話し合う。 (個人→グループ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><本時> 二つの物語が自分に最も強く語りかけてきたことを話し合う。(グループ→全体)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が自分に強く語りかけてきたことを考える手がかりにしている。 (言語についての知識・理解・技能) ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを文章にまとめている。(読む能力) ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友達と伝え合い、考えを広げたり深めたりしている。(読む能力)

7 本時の指導

(1) 目 標

物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友達と伝え合い、考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 本時の努力点・工夫点

- ・児童が自分の考えを自信をもって述べるように、「比べ読みカード」や共通した考えで編成したグループの話合いを軸に、考えを伝えることができるようにしたい。
- ・リーダーが中心となり、話合いを円滑に進めることができるように、話合いの進め方シートを準備する。全体の話合いでは、自分の考えと友達の考えを関連付けて発表したり、友達の発表に対して、全員で再度話し合ったりするようにし、児童の考えが深まるようにしたい。

(3) 準備・資料

- ・「自分の心にぐっときたこと みんなで語ろう会」の表示
- ・「海と山 比べ読みカード」
- ・「考えの広がり（水色）・深まりカード（緑）」
- ・話し合いの進め方シート
- ・「海のいのち 山のいのち グループ読み取りシート」
- ・タイムテーブル

(4) 展開（※ ゴシック体は、本時の努力点・工夫点に関する内容を表す。）

学習活動・内容	活動への支援・留意点（ <input type="checkbox"/> は評価）
1 本時のめあてを確かめ、見通しをもつ。 <div data-bbox="156 443 592 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">自分の心にぐっときたことを伝え合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none">・事前に児童の「海と山 比べ読みカード」を確認し、考えの似ている児童を集めたグループに編成する。・自分の考えを発表するだけでなく、グループや全体で友達に聞いてみたいことを聞くことができるチャンスであることを伝える。・各自の「海と山 比べ読みカード」やグループでの話し合いが、考えの根拠となることを確認する。・「自分の心にぐっときたこと みんなで語ろう会」と表示しておき、意識を高める。
2 「海のいのち」,「山のいのち」では、「いのち」がどのように描かれているかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えをカードを基に自由に述べてよいことや友達の考えでもっと聴きたいことを質問してもよいことを確認する。・友達の発表があいまいな時は、みんなで分かりやすい言葉に言い換えたり、短くしたりしていく。・共通する部分、異なる部分を整理して板書する。・話し合いが深まらない時は、教師側から読みのポイントとなる部分について触れたり、問いかけたりする。
3 「海のいのち」,「山のいのち」で最も自分に強く語りかけてきたことを話し合う。 (1) グループでの話し合い (2) 全体での話し合い ・物語の叙述を根拠に、自分の考えやグループで話し合ったことを発表する。 ・友達の発表に対して、各グループから意見を述べる。 ・考えが変化した時は、「考えの広がり・深まりカード」に記入する。	<ul style="list-style-type: none">・「海のいのち」,「山のいのち」, 両方から述べたいグループに分ける。・考えの似ている児童で編成したグループで話し合うことにより、自分の考えに自信をもったり、考えをさらに深めたりできるようにする。その後、全体で、自分とは違う考えを聴くことにより、考えを広げられるようにする。（考えの深まり→広がり）・グループの話し合いでは、リーダーを決めておき、話し合いがスムーズに進行できるようにする。・物語の叙述を根拠に、自分の考えを述べるよう伝える。・話し合いで分からなくなったことがあっても、さらに読みを深める過程として認めていく。・自分の考えと友達の考えを関連付けて発表するようにし、考えがつながる話し合いができるようにする。・自分の考えが述べられない児童には、グループでサポートし、できるだけ多くの児童が発表できるようにする。
4 「考えの広がり・深まりカード」に話し合いの結果をまとめる。	<p>[読む能力] 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友達と伝え合い、考えを広げたり深めたりしている。（話し合い・発言）</p>
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・「考えの広がり・深まりカード」の記入は、広がり、深まりのどちらか一方でもよいこととする。・自分の考えの変容が見て取れるように、各自の「海と山 比べ読みカード」に添付するよう伝える。・考えの広がりや深まりに大きな変化が見られた児童を指名して発表させる。・振り返りカードに目標達成度を自己評価するよう伝える。・立松和平のいのちシリーズの他の本の読書を薦める。